

## 平成 28 年度 生駒市の子ども の 現状 と 教育 の 取組

### 基本方針

本市の学校教育は、人間尊重の精神を培うことを基盤に、心豊かにたくましく生きる力をもった子どもを育成することを目指して推進する。

基本方針のもと、平成 28 年度は「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」「たくましい心身の育成」「創意と活力に満ちた安全で信頼される園・学校づくり」を重点目標としている。また、重点目標を達成するために、学校評価に基づいた「教職員の研修」を指示してきた。6 月には生駒市の教育施策の基本となる、「生駒市教育大綱」が策定され、生駒市の教育における理念、方向性が示された。

「確かな学力の育成」においては、本年度も「伝え合う力の育成」と「わかる授業づくり」、「読書活動の推進」を具体的な内容とした。

「豊かな人間性の育成」は、依然としていじめ事件が社会を震撼させる中、生駒市としても肝要な事項として捉え、「規範意識の醸成」と「いじめ対応の充実・推進」を指導の重点としている。他にも「命の大切さを学ばせる教育の充実」「情報モラルの向上」にも力を入れてきた。

「たくましい心身の育成」は、今年度も児童生徒の体力向上を目指して取り組んだ。生駒市では 6 年前からすべての学校に「体力づくり推進プラン」の策定を求めており、継続的に取り組むことに力を入れている。また、「防災教育の推進」にも取り組み、8 月には教員向けの研修会を行った。

「創意と活力に満ちた安全で信頼される園・学校づくり」については、以前より学校経営目標の達成度や教育活動の状況に関する学校評価を行い、その結果を活用して学校改善に十分に生かすことを各学校に指導してきた。その取組はかなり浸透し、学校教育目標策定に生かされている。また、学校関係者評価を計画的に行うことにより、地域と共にある学校づくりを推し進めるようにした。

以上を本年度生駒市重点目標と定め、各学校で教育活動に取り組んだ。

### 1、「確かな学力の育成」について

平成 28 年度全国学力・学習状況調査における生駒市立学校の調査結果を見ると、小中学校ともにほとんどの領域において、昨年と同様に奈良県、全国を上回っている。また、小中学校ともに、A 問題（主として知識に関する問題）に比べて、B 問題（主として活用に関する問題）の平均正答率が低い。これは奈良県、全国も同様の傾向が見られる。自分が得た知識や考えをどのように活用し、どのように伝えるのが本年度も課題としてあげられる。自分の考えを整理できるように、本年度は授業のめあてを明確にし、何を学び、どのような力がついていくのかを意識させながら、「わかる授業」づくりに取り組んだ。

また、現行学習指導要領の実施に合わせ、生駒市では「伝え合う力育成事業」として、読書活動と外国語活動を推進している。平成 25 年 1 月 15 日に閣議決定された教育再生実行会議では同年 5 月 28 日に第 3 次提言を発表し、初等中等教育段階からのグローバル化に

対応した教育の充実が示された。国際感覚を身に付け、国際社会で活躍できるグローバルな人材を育成するため、外国語活動の中身を充実させていくことが重要であり、生駒市としては1・2年生からの外国語活動に取り組んでいる。

### (1)全国学力・学習状況調査

平成28年度、生駒市は、12小学校6年生1,149名、8中学校3年生1,072名が参加し、国語A・B、算数（数学）A・B、及び児童生徒質問紙に回答している。

	小学校(6年生)				中学校(3年生)			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
生駒市	77.0	62.5	82.7	52.2	79.4	72.1	71.1	51.2
奈良県	71.7	56.9	77.1	46.4	75.9	65.5	63.6	44.2
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1

(%)

学力調査結果を見ると、小中学校ともに、国語、算数・数学のすべての調査について、平均正答率が奈良県・全国を上回っており、これについては、学力テストが始まった平成19年から同様の状況が続いている。また、小中学校ともに、A問題（主として知識に関する問題）に比べて、B問題（主として活用に関する問題）の平均正答率が低くなっている。奈良県、全国も同様の傾向が見られ、活用する力をつける取組が課題となっている。

児童生徒質問紙調査では、国語、算数・数学について「勉強は好き」と回答した児童生徒の割合が、小学生では全国の数値と同等、もしくは上回っているが、中学生ではどちらも全国を下回っており、中学生の意欲向上が生駒市の課題として挙げられる。

全国学力・学習状況調査の結果を、今年度は生駒市内の全小・中学校がそれぞれ学校独自で分析し、その結果をふまえて具体的な取組につなげている。

市教委は調査結果と課題改善のための施策をホームページに公表している。各学校にも結果と課題改善のための取組等を何らかの方法で保護者や地域住民に公表することを求めているが、学校だよりを通じて分析した結果を公表し、学校独自の取組を紹介している学校が多い。すべての学校ではないので、今後分析した結果を保護者や地域住民にどのような形で示していくかが課題である。

### (2)奈良県学力・学習状況調査

平成28年度、奈良県はすべての小中学校を対象に「奈良県学力・学習状況調査」を実施した。生駒市は、12小学校4年生1,236名、8中学校1年生1,099名が参加し、国語、算数・数学及び児童生徒質問紙に回答している。

小中学校ともに、国語、算数・数学の全ての調査について、平均正答率が奈良県を上回っていた。これは、昨年に引き続き全国学力・学習状況調査と同じ傾向である。

	小学校(4年生)		中学校(1年生)	
	国語	算数	国語	数学
生駒市	74.7	76.2	70.8	78.5
奈良県	70.0	73.5	66.9	74.0

(%)

児童生徒質問紙では、「自分によいところがある」と答えた児童生徒が奈良県を上回っており、昨年同様、自尊感情を高めるための改善が見られた。しかし、数値的に高いわけではないので、引き続き指導していく必要がある。

### (3) 伝え合う力の育成

2015年の国際的な学習到達度調査(PISA)では、日本の「科学的リテラシー」と「数学的リテラシー」の平均点は上昇したが、「読解力」の平均点が前回の4位から8位に低下したと発表があった。

一方、平成28年度の全国学力・学習状況調査によると、生駒市の児童生徒の正答率は全国・県より上回っているが、正答率としては小学校国語Bでは話す・聞く力と書く力が、中学校国語Bでは書く力が、他の領域よりも低くなっている。依然、文章から内容を読み取ったり、思いを表現したりすることに課題があると考え、各校に言語活動や伝え合う力の育成に力を入れることを伝えた。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の資料の読み取り、説明や書くことに関する質問で、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた割合を見てみると以下のような結果となった。

○国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	55.4%	56.8%	65.2%
	中学校	48.5%	43.3%	59.2%
H28	小学校	61.2%	60.8%	67.0%
	中学校	45.1%	48.3%	62.2%

○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	59.5%	62.0%	60.1%
	中学校	62.7%	66.1%	64.4%
H28	小学校	56.9%	63.6%	60.4%
	中学校	64.5%	65.5%	62.8%

○授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	54.0%	57.8%	55.2%
	中学校	65.0%	66.9%	64.4%

H28	小学校	50.4%	58.4%	54.8%
	中学校	69.5%	67.7%	62.8%

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	65.4%	64.4%	66.9%
	中学校	56.1%	53.6%	62.9%
H28	小学校	67.1%	65.1%	68.3%
	中学校	55.3%	58.0%	64.8%

奈良県と生駒市の児童生徒は、全国平均と比べると、資料を読み込んで自分の考えをまとめる活動を得意としていない。中学校になると、その隔たりは顕著となっている。また、自分の思いや考えを短くまとめて文章にすることも苦手と感じている児童生徒が半数を超えている。同様に、自分の考えを人に伝えることも難しいと感じている。そして、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることも、全国平均と比べると低くなっている。

伝え合う学習に各校とも取り組んではいるが、今後はさらに協議やディベート、体験活動などを通して、児童生徒が能動的・主体的に学習に取り組める授業形態を取り入れ、自分の考えをしっかりと持ち、他者に対して表現したくなるような指導方法の構築が望まれる。また、ファシリテーターとしてのスキルを高めることにより話し合い活動で様々な意見を引き出せるようにすることや、ブレインストーミングなどを利用して書きたい内容を視覚化し、文章を構築させるような取組を行うことなど、書くことへの苦手意識を減らせるような指導が望まれる。

<その他項目で「当てはまる」あるいは「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合>

項目	学校	生駒市	奈良県	全国
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動であった	小学校	56.2%	57.6%	65.4%
	中学校	40.7%	42.1%	57.7%
今までに受けた授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていたか	小学校	83.9%	81.6%	83.4%
	中学校	56.3%	63.1%	76.9%
今までに受けた授業では、自分たちで課題を立て、解決に向け情報を集め、話し合いながら整理し、発表するなどの学習活動を行っていたか	小学校	74.1%	71.8%	75.7%
	中学校	52.4%	57.2%	69.3%
今までに受けた授業では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたか	小学校	77.0%	75.1%	77.1%
	中学校	58.9%	61.8%	72.4%

#### (4) わかる授業づくりの実践

平成28年度の全国学力・学習状況調査によると、授業内容がわかる・どちらかといえばわかると答えた児童生徒の割合は下記の通りとなった。

国語		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	84.0%	83.0%	82.0%
	中学校	72.6%	72.6%	74.3%

H28	小学校	84.2%	81.7%	80.7%
	中学校	69.4%	72.5%	74.1%

算数・数学		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	82.9%	79.9%	81.0%
	中学校	76.9%	72.7%	71.6%
H28	小学校	80.7%	79.8%	80.2%
	中学校	72.0%	70.7%	69.4%

国語や算数の授業がわかると答えた児童は、平成 27 年度と比べるとほぼ横ばいであるが、国語や数学の授業がわかると答えた生徒は、平成 27 年度と比べると国語・数学ともに 3～4 ポイント下がっている。児童生徒にとって、学習意欲は学習内容が理解できることとも直結する。そのため、教師は授業のねらいを的確にとらえ、わかりやすく、かつ能動的な授業を構築する必要がある。授業に対して児童生徒はどのように感じている課の調査では以下のようになった。

○今までに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	78.0%	79.6%	86.3%
	中学校	52.6%	57.7%	79.7%
H28	小学校	85.6%	84.8%	87.6%
	中学校	68.0%	71.1%	84.9%

○今までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	64.6%	66.7%	75.3%
	中学校	35.9%	41.7%	59.3%
H28	小学校	68.0%	70.4%	76.1%
	中学校	45.2%	47.3%	63.1%

○今までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	77.4%	75.6%	87.1%
	中学校	41.9%	47.9%	73.7%
H28	小学校	80.5%	80.3%	87.9%
	中学校	49.6%	54.4%	76.8%

生駒市の児童生徒は、授業の中で学習の目標が分かりやすく提示されているとは感じていないようである。1 時間の授業の中で、授業のめあてとまとめを示すことは極めて重要である。また、児童生徒が後に授業を振り返った時に、何を学んだのかがわかりやすくまとめられているノートづくりも授業を行う上で大事な要素である。平成 27 年度と比べると数値は上がっているものの、特に中学校はどの項目も全国平均とは大きな開きがある。教師として重要な「授業力」を真摯に見直す必要がある。

子どもたちにとって授業が楽しく、わかりやすくあるためには、授業構築のあり方について改めて組織的な研修を充実させる必要があると考える。これからは「アクティブラーニング」が重要視され、主体的な学び、対話的な学び、そして深い学びが求められる。その上で、思考力、判断力、表現力を付けていかなければならない。今後は教師自身が体験的な研修を通して、「わかる授業づくり」に努めて欲しいと考える。

○特別支援教育支援員の活用

わかる授業づくりのためには授業の改善とともに、個別の配慮や支援が必要な児童生徒の学習支援も必要である。通常学級に在籍する自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害等の発達障害を持つ可能性のある児童生徒は約 6.5% (H24 年 12 月文科省公表) と言われている。そのような子どもたちには、座席位置を工夫したり、習熟度別の学習を行ったり、コミュニケーションの配慮を行ったりしている。平成 28 年 4 月から障害者差別解消法が施行され合理的配慮が教育の中でも求められる中、すべての人が一人一人の多様性を認め合う「共生社会」の実現を目指す「インクルーシブ教育システム」構築のため、今後さらなる特別支援教育の充実が必要である。

生駒市ではそのような子どもたちへのサポートを行うため、特別支援教育支援員の派遣を行っている。

< 小学校の特別支援教育支援員の配置状況 > (平成 28 年 12 月末現在)

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小	合計
配置数	3人	5人	1人	5人	5人	4人	2人	3人	3人	4人	3人	1人	38人
配置日数(週)	7日	10日	2日	9日	12日	8日	5日	5日	10日	7日	8日	2日	85日

< 中学校の特別支援教育支援員の配置状況 > (平成 28 年 12 月末現在)

	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	合計
配置数	2人	1人	0人	1人	1人	1人	1人	2人	9人
配置日数(週)	4日	2日	0日	3日	1日	1日	1日	3日	15日

昨年度は小学校配置数 34 人、週当たりの配置日数は 72 日だったが、本年度は 38 人、85 日になっている。同様に昨年度の中学校は配置人数 7 人、週当たりの配置日数は 13 日だったが、本年度は 9 人、15 日となった。

近年、特別支援教育支援員の配置日数増を要望する学校が増えており、今年度はトータル 20 日増加した。しかし、まだまだ要望が多く、来年度に向け予算化に取り組んでいる。今後も、各学校の特別支援教育コーディネーターと特別支援教育支援員、通級指導教室(ことばの教室)と連携協力しながら、全職員が障害を持つ児童生徒一人一人の障害とその対応について理解し、個別の教育支援計画などを利用して保護者や本人の思いに寄り添い、

そのニーズを満たす支援や指導ができるような体制作りをしなければならないと考える。また、教員が支援が必要な子どもに対する正しい理解と支援ができるように、研修会の開催等も必要と考える。

### (5) 読書活動の推進

児童生徒の感性を磨き、創造力を育て、感じたことを表現できる力を育成するために、読書活動の推進を継続して行っている。現行学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力を育成するために、各教科における言語活動の充実が重視されている。また、PISA型調査での「読解力」の低下を受け、文部科学省は学習指導要領の改訂による国語教育の改善・充実を目指すとしている。具体的な取り組みとして、読解力を支える語彙力を強化するため、学習指導要領における語彙指導の位置づけの明確化や読書活動の充実などを挙げている。

生駒市としてもすべての教科等で言語活動を取り入れ、伝え合う力の育成をめざし取組を行っている。その1つとして、言語活動の充実を図るため、平成21年度から学校司書を各学校に配置し、本年度は3校に週3日、16校に週2日の配置となっている。

平成28年度全国学力・学習状況調査に見られる読書に関する質問項目については次のような結果となっている。

読書は好きですか			好き	どちらかと 言えば好き	どちらかと 言えば嫌い	嫌い
小学校	H27	生駒市	51.5%	21.5%	14.8%	12.2%
		奈良県	46.4%	22.8%	17.2%	13.5%
		全国	48.9%	23.9%	15.7%	11.5%
	H28	生駒市	52.9%	24.8%	13.0%	9.1%
		奈良県	47.1%	25.1%	16.7%	10.9%
		全国	49.3%	25.3%	15.3%	9.9%
中学校	H27	生駒市	39.2%	21.0%	19.2%	20.3%
		奈良県	40.9%	21.8%	18.2%	18.9%
		全国	44.9%	23.0%	16.8%	15.0%
	H28	生駒市	35.0%	20.0%	20.2%	24.4%
		奈良県	41.5%	22.2%	18.2%	17.7%
		全国	46.5%	23.4%	16.2%	13.6%

好き、どちらかと言えば好きと答えた生駒市内の子どもは、小学生77.7%（全国72.8%）、中学生55.5%（全国69.9%）である。小学校は全国平均よりも上回ったが、中学校は全国平均と大きく隔たりがある。また、読書が嫌いと答えた生徒は全国平均の2倍近くもいる。

以前より漫画は会話で話が進み、長文が少ない傾向があった。近年はスマートフォン、特にソーシャルネットワークサービスの普及により、子どもの生活の会話の短文化が進み、長文を敬遠する傾向が強くなってきたと推察される。さらに、「学校の授業時間以外に普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」という質問に対し、「全くしない」と答えた子どもは、小学校16.6%（全国20.6%）、中学校49.1%（全国37.2%）だっ

た。生駒市中学生の読書離れは深刻化してきており、読書活動へのさらなる取組が必要と考える。

各学校では春の子ども読書の日、秋の読書週間に合わせて読書に対する興味関心を高める取り組みを行っている。また、司書による読み聞かせや図書紹介を行うとに、児童生徒は興味を持って話を聞いている。4月から12月までに学校図書館司書が行った読み聞かせは、小学校平均約115回である。中学校では、ブックトークや図書紹介、図書館案内、本のポップの作成、ビブリオバトルなど各種工夫を凝らすことにより、図書貸し出し数の増加につながっている。全国学力・学習状況調査による図書館(室)の利用は、わずかではあるが、中学校は全国平均を上回った。

○1週間に1回以上学校図書館(室)や地域の図書館に行く回数

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	14.4%	11.3%	17.6%
	中学校	7.7%	4.7%	8.2%
H28	小学校	15.4%	11.0%	16.4%
	中学校	8.3%	3.9%	7.6%

○平日1日当たり、30分以上読書をしている割合(教科書、参考書、マンガ、雑誌は除く)

		生駒市	奈良県	全国
H27	小学校	40.7%	36.3%	37.7%
	中学校	25.4%	26.2%	30.6%
H28	小学校	37.4%	34.0%	36.5%
	中学校	22.8%	24.6%	28.2%

全国学力・学習調査の質問紙の結果を見ると、週1回以上図書館等を利用している小学生、中学生共に微増している。一方で、平日30分以上読書をしている小学生、中学生は昨年度よりも減っている。学校での取り組みが図書館利用を伸ばしていると考えられるが、読書時間の増加にはつながっていない。読解力を支える語彙力を強化するため、読書活動の支援にさらに取り組んでいきたい。

## (6)外国語活動の推進

現行の学習指導要領では外国語活動を5、6年生で実施するが、生駒市ではそれを3年生から行い、外国語活動の充実を図っている。今年度はさらに1、2年生でも実施している。国際感覚を身に付けるためにも言語など外国の文化に触れることは大変重要である。特に小学校では外国語活動の指導力に優れた教職員が少なく、ALT(外国語指導助手)やわくわくイングリッシュサポーター(外国語活動を指導する学級担任等を補助する地域人材)が授業の補助をすることで、外国語活動の充実を図っている。

平成32年度から全面実施される国の新学習指導要領に基づく新しい英語教育では、5・6年生で教科型の英語を週2時間、3・4年生では週1時間の外国語活動の実施が示されている。

<ALTとわくわくイングリッシュサポーターの活用予定時数>

(平成 28 年度)

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	老小	二小	合計
ALT (配置日数)	43	40	26	74	47	52	49	50	52	68	71	27	599
E サポーター (配置時数)	77	55	22	99	66	66	66	77	66	88	88	33	803

	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	合計
ALT (配置日数)	38	30	28	37	32	46	44	41	296

## 2、「豊かな人間性の育成」について

「豊かな人間性の育成と確かな規範意識の醸成」は、いじめや問題行動が依然として存在する市内の状況を踏まえ、本年度も指導の重点の1つとしている。各学校で子どもたちの社会性や忍耐力を培い、豊かな人間関係を構築する取組を期待した。

### (1) 豊かな人間性の育成

生駒市においては、小中全ての学校が「児童生徒は熱意を持って勉強している」と感じている。また、小中学校のほぼ全てが「授業中の私語が少なく、落ち着いている」「礼儀正しい」と感じており、授業規律を守る学校としての指導の効果が見られ、昨年度同様行き届いている。

○人の気持ちが分かる人間になりたいか。

		生駒市	奈良県
H 2 8	小学校 4 年	95.9%	95.0%
	中学校 1 年	97.2%	96.5%

○人の役に立つ人間になりたいと思うか。

		生駒市	奈良県	全国
H 2 7	小学校 4 年	90.7%	89.3%	
	小学校 6 年	94.9%	94.1%	93.7%
	中学校 1 年	94.3%	91.2%	
	中学校 3 年	93.6%	93.0%	93.7%
H 2 8	小学校 4 年	96.6%	94.9%	
	小学校 6 年	95.5%	94.3%	93.8%
	中学校 1 年	96.7%	96.5%	
	中学校 3 年	91.4%	91.9%	92.8%

「人の気持ちが分かる人間になりたいか？」の質問には「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童生徒が、小学校 4 年 95.9%、中学校 1 年 97.2%。「人の役に立つ人間になりたいと思うか？」は、小学校 4 年 96.6%、小学校 6 年 95.5%、中学校 1 年 96.7%、

中学校3年 91.4%であった。昨年と比較すると、中学校3年生以外の数値が高くなっており、生駒市が目標としてあげている「豊かな人間性の育成」の成果が見られる（平成28年度全国学力・学習状況調査、奈良県学力・学習状況調査より）。これからの時代を生き抜くためには「人間力」が求められる。周りから必要とされ、また協働していけるようになるためにも、広い心と豊かな人間性の育成に努めたい。

## (2) 規範意識の醸成

先の「豊かな人間性の育成」でも述べたように、授業規律を守る学校としての指導の成果が学校側の回答から見られた。一方、児童生徒たちの質問紙回答を見ると、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と感じている児童生徒は小学校4年 98.4%、小学校6年 96.7%、中学校1年 97.4%、中学校3年 91.4%だった。中学校3年生では奈良県、全国平均を下回り、いじめ根絶に向けた取組内容の再確認が必要である。講師招聘等も行いながら、児童生徒のさらなる規範意識の向上を目指したい。

## (3) いじめ対応の充実・推進

<奈良県いじめに関するアンケート：件数>

(平成28年6月下旬実施)

	小学校	中学校	全体
1、平成28年4月からアンケート実施日までにいじめられたことがある者	1349	68	1417
2、1で「ある」とした者で、「今はいじめられていない」と答えた者	855	35	890
3、どのようないじめか			
①冷やかす、からかい、おどしがあったり、悪口やいやなことを言われたりする。	765	44	809
②仲間はずれにされたり、みんなから無視されたりする。	305	18	323
③軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、けられたりする。	284	19	303
④ひどくぶつかられたり、たたかれたり、けられたりする。	217	10	227
⑤お金や持ち物をむりやり取られたり、要求されたりする。	50	3	53
⑥お金や持ち物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	76	7	83
⑦嫌なことや恥ずかしいこと、危ないことをされたり、させられたりする。	168	7	175
⑧パソコンや携帯電話に悪口やいやなことを書かれたりする。	13	7	20
⑨その他	129	8	137
4、1のうち、学校として、いじめと確認した件数	359	26	385

毎年6月にいじめアンケートを県下一斉に実施している。生駒市においては、昨年度の調査より、いじめの認知件数が増加しているが、「見守りしていくケース」もすべていじめとして認知した結果による。調査後、認知されたすべてのいじめ事案について、担任等が児童生徒から聞き取りを行い指導した。その結果、認知された事案については一定解決しているものの、見守りが継続中であつたり、相手の特定に至らなかつたり、未解消の事案もあるため、全体的に引続き見守り等の継続した指導を行っている。いじめの問題については未然防止を第一としながら、認知の有無だけでなく、十分な実態把握とその後の迅速な対応が重要である。学校独自でのアンケート調査、個別懇談の実施、児童生徒が相談しやすい環境づくりのためのスクールカウンセラーの配置等、いじめの積極的認知に努める

とともに、その対応にあたっては、「いじめられている子どもの立場に立って指導する」「いじめられている子どもを守り通す」という観点を大切にし、迅速かつ組織的な対応を、日常的かつ定期的に進めていく。生駒市ではいじめ防止の柱として「生駒市いじめ防止基本方針」を策定中であり、ネット上のいじめをはじめとした、見えにくさを特徴とする多様な形態のいじめに対して、社会総がかりで根絶していく体制の整備に努めている。また、当該児童生徒や保護者、教職員に対して医療機関など専門機関と連携して指導助言や援助を受けられるように、そしていじめる子どもに対しては毅然とした対応と粘り強い指導が行えるように、スクールアドバイザーズの活用も推進している。

一方で、いじめ防止のための日常的な取組を充実させなければならない。「いじめを許さない」集団作りのため、教師間の連携を密にして全校体制で取り組むことはもとより、児童生徒一人一人のよさや存在感を認め、自己肯定感や自己有用感を高める取組を進めている。今年度は、市内小中高生による「いこまスマホサミット」を開催し、「いこまスマホ宣言 2016」を作成した。これは各校のいじめ防止啓発活動の推進取組を活性化させる手段の一つとして位置づけられる。そして保護者、地域に対しては、人権意識の高揚のための啓発活動をより一層広げるとともに、見守り活動をはじめとした学校との協力関係を強化している。

今年度の「いじめ防止月間」の取組として、生駒市地域ぐるみの児童生徒健全育成事業推進協議会主催の「子どもの心身に向き合う問題」に関する講演会の開催、「いじめ防止」啓発のぼりを生駒駅周辺に設置した。また、教育相談カードを配布し、悩み相談窓口を紹介するとともに、「いじめ防止」啓発ポスターと横断幕を小中学校で掲示している。

<いじめを許さない園・学校づくりのため、特に力を入れて取り組んだ内容>

		主な内容
幼稚園	高山	日々の生活の中で友達の気持ちに気付かせる指導と、教師の資質向上に努める
	なばた	毎月の「だいすきの日」や誕生会に自分も他人も大切にしようとする取組
	生駒台	家庭との連絡を密に取り「自分も友達も大切にする子」の育成
	南	園児の心を育てる取組と職員間の情報共有の充実
	生駒	互いの良さや違いを認め合い、いかしあえる仲間づくりに努める
	俵口	生命を大切にし、互いに認めあえるなかまづくりを進める
	あすか野	幼児の豊かな心を育てる取組・教師間の問題意識の共有
	桜ヶ丘	遊びの中でコミュニケーション力をつける指導と職員の情報交換
	壱分	月に一度「なかよしの日」「子育てトーク」「にこにこトーク」等を設定
小 学	生駒	定期的に職員研修を開催し、心配りの必要な児童についての情報を職員が共有するとともに指導に生かした。児童運営委員会が中心となり、あいさつ運動や募金活動等をおして明るく楽しい学校づくりに取り組んだ。いじめに関するアンケート調査を実施するとともに、個別の聞き取りを行い、必要に応じて適切な指導を行った。
	生駒南	低学年では、学年目標「なかよし」を示し、自分たちにできることや名前のお大切さ、友達への言葉かけを考えた。また、終わりの会で友だちの頑張りや受けた親切について発表した。「怒りの感情」は人によって違うことや、感情の仕組みを勉強し、怒りへの対処法（呼吸法、カウント法）を学んだ。高学年では、目標「成長と感謝」を達成するための方法を考え、日々の言動や生活を振り返った。目

校		標「自分で考え行動する」についても取組み、自己肯定感や規範意識が身に付くよう考えた。いじめアンケートの実施。保護者との連携を密にし、子ども同士のささいなめ事も大きなトラブルにならないように心がけている。
	生駒北	いじめアンケートの実施。児童と担任の面談によるいじめ早期発見と未然防止。特支学級入級児童を理解するための道徳指導や学級指導
	生駒台	全校朝会で校長がいじめ防止について講話した。各クラスで、道徳の教材や読み聞かせを通して、子どもたちに呼びかけた。小さなことでも、子どもたちの行動に着目しいじめの兆候がみられないか見守った。
	生駒東	全校集会で学校長からいじめについての話があった。それを受けて各学級でも学級指導を行った。職員会議でいじめアンケートについて提案後、アンケート実施。集計。確認。指導。事象によっては、管理職と相談しながら児童への聞き取りを進めた。文化広報委員会による、「ぼかぼか言葉」の掲示とそれを使った授業や6月のお誕生日紹介放送。土曜参観で、複数学年が道徳授業を実施した。
	真弓	アンケートの実施。アンケート結果からの児童への聞き取り。実態把握の委員会（校長・教頭・教務・生徒指導部長等）。いじめ実態報告、学級指導。
	俵口	全校朝の会（6/3 金）での校長の話。学級での指導（いじめにつながりそうな事象がないか、現在の状況を確認する）。学級集団づくりを進める（学年での情報交換、個別の指導、学級活動による指導、道徳教育の全体計画に基づく授業を、6月中に道徳または学級活動で取り組む）。「いじめサイン発見シート」を保護者に配布し、保護者から相談があればすみやかに対応する。「いじめに関するアンケート」調査を6月中旬に実施した。児童会による啓発活動（標語、ポスター、放送などで啓発活動をする。）
	鹿ノ台	それぞれの学級でいじめ問題や、友達と仲良くすること、相手の気持ちを考えて行動することなどの内容を取り上げて道徳の学習や学級指導を行った。6年生では学年を15グループに分けて「いじめのない学校にするためにはどうすればよいか」を話し合い、意見をまとめて発表した。さらにまとめて使ったポスターなどを廊下に掲示して他学年への啓発を行った。
	桜ヶ丘	全校集会で校長がいじめについての講話を行う。生徒指導部より職員会議で、いじめの未然防止について及びいじめ事象への対応について提案を行い、全校での指導の徹底を図った。ホームページに、いじめの基本方針を掲載し、保護者への啓発活動を実施している。
	あすか野	生徒指導報告会を定期的開催し、各学級・学年の情報を職員が共有し、指導に生かした。児童会が中心になり、学校目標（スローガン）を決定し、全児童に啓発した。いじめに関するアンケート調査を実施するとともに、個別の聞き取りを行い、必要に応じて適切な指導を行った。
	壱分	・いじめアンケートによる調査。いじめ防止に向けて、子どもたちに「いじめは絶対に許さない」という意識を持たせることを定着させるために、6年生でDVD「いじめと戦おう」等を扱いながら、いじめの授業を実施した。また、全学年児童に①自分が発した言葉に責任を持つこと②勝手に人の情報を広めないこと③自分の考えや思いをしっかり持って流されないこと を守ってほしいこととして伝えていく。
	南第二	職員研修「子どもを見つめて」（クラスで気になる児童の現状を職員で理解する）。人権教育授業参観及び懇談。職員研修「人権参観報告会」。いじめアンケート実施。
	中	生駒
生駒南		いじめに関するアンケート調査の実施。「ふれあいタイム」（二者面談）の実施。

学 校	生駒北	いじめアンケートの実施。アンケートをもとにした二者面談の実施。生徒総会や全校集会での講話やアピール。道徳や学活の時間等でいじめ問題について考える。
	緑ヶ丘	県いじめアンケート実施。教育相談アンケート自校用実施。教育相談週間教育相談実施。
	鹿ノ台	(いじめに関する項目を含む)生活アンケートの実施。教育相談(二者懇談)の実施。学年集会の場を利用した呼びかけ。「私たちの道徳」(3)正義を重んじ公正。公平な社会を 単元の学習
	上	・教育相談(二者面談)の実施。生徒会の活動方針「一輝来進～輝け、そして未来へ～」の中で、いじめをなくしなまを思いやることを掲げ、生徒総会で決議する。人権講演会「新ちゃんのお笑い人権話～自分の人生、自分が主人公～」(講師：露の新治さん)の実施を計画する。(気象警報による臨時休校のため延期、日時調整中)
	光明	学校生活アンケート実施。ふれあいタイム実施(担任との教育相談)。生徒総会で「命を守る憲章」確認。腰塚勇人さん「命の授業」講演会。高松由美子さん「命の授業」講演会。県いじめアンケート実施。本校SCによる職員研修「自殺予防教育」。いじめ防止対策委員会開催。
	大瀬	学校独自のアンケートを実施。担任と生徒との二者面談(教育相談)を行ない、全生徒の思いをくみ上げている。生徒会で「いじめゼロ宣言」を発表した。

#### (4)不登校児童生徒について

<不登校児童生徒数の変化>

	小 学 校	中 学 校	小学校 1000人当 たり(市)	小学校 1000人当 たり(県)	小学校 1000人当 たり(国)	中学校 1000人当 たり(市)	中学校 1000人当 たり(県)	中学校 1000人当 たり(国)
平成23年度	24	71	3.4	4.1	3.3	23.0	28.7	26.4
平成24年度	26	88	3.6	4.5	3.1	27.4	28.9	25.6
平成25年度	33	103	4.5	5.0	3.6	32.4	30.8	26.9
平成26年度	26	90	4.1	4.8	3.9	27.9	29.5	27.6
平成27年度	28	100	3.9	4.7	4.2	31.6	27.4	28.3

(人)

平成27年度、本市において不登校を理由に年間30日以上欠席した児童生徒数は、小学校28名、中学校100名で、1000人当たりの人数は小学校で3.9人、中学校では31.6人だった。

昨年度に比べ、不登校児童生徒数は増加しているが、小学校では全国平均を下回り、中学校では全国平均より上回る状況である。不登校児童生徒には、教員による家庭訪問、スクールカウンセラーによる保護者や児童生徒を対象としたカウンセリングや教育相談を行っている。また、適応指導教室で学習活動に参加している児童生徒もいる。

不登校の未然防止と早期改善・解消のために、各学校では、一人一人を大切にする仲間づくりや分かる授業・楽しく参加できる授業の創造などに力を入れるとともに、欠席が長期化する以前の早期段階での家庭とスクールカウンセラーや教育相談室と連携したきめ細かな対応を進めるようにしている。また、幼稚園・保育園と小学校間、小学校と中学校間における情報共有を積極的に行うことも連携強化として必須である。

生徒指導を進めるうえにおいて、教育相談活動は不可欠なものとなっている。特に、スクールカウンセラーは専門的立場から、不登校や学校生活への悩みを抱える児童生徒に対

するカウンセリングはもちろん、教員及び保護者に対する指導・助言・支援など、学校のカウンセリング機能と教育相談体制の充実のために欠かすことのできないものとなっている。また、各校教育相談週間を設定したり、独自のアンケートを行ったり、多角的に情報収集のアンテナを張り巡らせ、児童生徒の心の状態を細かに把握するよう努めている。

#### ＜スクールカウンセラーへの相談＞

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
相談件数	1540 件	1564 件	1857 件	1742 件	1741 件	1434 件
カウンセラー数	13 人	19 人	18 人	19 人	19 人	19 人

(平成 28 年度は 4 月から 12 月の 9 か月間)

昨年度から、県下すべての中学校にスクールカウンセラーが配置された。本市では、教育相談活動を充実させるために、独自にスクールカウンセラーを配置している。さらに、スクールソーシャルワーカーも配置し、家庭と学校を繋ぐ役割も果たしている。

不登校やいじめについての相談、発達障害など特別な支援を要する子どもについての相談、家庭環境や家族関係、進路に関する相談等、内容は多岐に渡っている。相談希望や相談件数が多数あることから、スクールカウンセラーのニーズが高いことを認識し、今後も円滑に運用できるように努める。また、相談活動以外にも、「予防的教育相談」の視点からコミュニケーション能力の育成やより良い人間関係づくりのための指導の充実にもその役割を広げていく。また、スクールカウンセラーによる教職員対象の研修を開催する学校もあった。

本年度は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、コーディネーターによる交流会を開催し、手法の交換や事例の考察を通して、教育相談担当者自身の連携を一層強化した。

#### (5) 環境教育の推進

生駒市は、平成 26 年 3 月に「環境モデル都市」に認定されたことを機会として、教育の場での環境学習をより一層充実させるために、総合的な環境教育を進めてきた。

取組としては、『エコキッズ-いこま』として環境教育を推進している NPO 団体の出前授業を全小学校 12 校を対象に行っている。外部団体や関係機関とも連携した取組を通して、子どもたちに自ら環境に働きかけて環境を守ろうとする姿勢を身に付けさせたい。

さらに、各校での環境教育の実施状況をポイントに換算したり、今年度の電気使用量の節減額を参考にしたりして配当額を決定する『エコボーナス』を児童生徒や職員の意欲付けとして行っている。

次に、国際環境教育基金（FEE）が実施する学校での環境学習のためのプログラム『エコスクール』への登録を推進していく。昨年度は生駒南第二小学校、生駒台小学校、鹿ノ台中学校が登録して取組を進め、3 校全てが「グリーンフラッグ賞」を獲得した。今後も登録校数の拡大を図っていききたい。そして、生駒市の子どもたちが、環境問題をはじめとして社会の様々な課題に目を向け、共に解決していこうとする意欲と実践力をもった ESD 社会の担い手となる人材に育つような環境教育を推進していきたいと考えている。

### 3、「たくましい心身の育成」について

本市では、県教育委員会の指導の重点である「体力向上」に基づき、「たくましい心身を育てる指導」を推進している。市教委では6年前からすべての学校に「体力づくり推進プラン」を策定し、継続的な取組を進めてきた。以前は全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果は全国に比べ低い状態だったが、一昨年度に体力合計点が全国レベルに達し、本年度においては、昨年度に引き続き中学校2年生男女で、全国平均を大きく上回る結果となった。

#### (1)生駒市の子どもたちの体力について～平成28年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査より～

小学5年生	男子				女子			
種目	H28年度 全国平均	H28年度 市平均	全国平 均との 比較	前年度の市平 均との比較。 ( )は前年値	H28年度 全国平均	H28年度 市平均	全国平 均との 比較	前年度の市平 均との比較。 ( )は前年値
握力(左右平均)	16.47	15.81		↓(16.27)	16.13	15.46		↓(15.89)
上体起こし	19.67	19.79	↑	↑(19.37)	18.60	18.32		↑(18.30)
長座体前屈	32.87	30.64		↓(31.56)	37.21	34.34		↓(36.01)
反復横跳び	41.97	41.46		↑(40.88)	40.06	38.66		↑(37.67)
20mシャトルラン	51.89	52.81	↑	↓(53.48)	41.29	40.94		↑(40.44)
50m走	9.38	9.21	↑	↑(9.28)	9.61	9.55	↑	↑(9.60)
立ち幅跳び	151.39	154.19	↑	↓(155.69)	145.31	145.30		↓(147.24)
ボール投げ	22.42	22.15		↓(22.17)	13.88	13.67		↓(13.77)

中学2年生	男子				女子			
種目	H28年度 全国平均	H28年度 市平均	全国平 均との 比較	前年度の市平 均との比較。( ) は前年値	H28年度 全国平均	H28年度 市平均	全国平 均との 比較	前年度の市平 均との比較。 ( )は前年値
握力(左右平均)	28.91	28.49		↓(28.87)	23.75	23.60		↓(23.94)
上体起こし	27.46	29.98	↑	↑(28.78)	23.48	26.13	↑	↑(25.15)
長座体前屈	43.06	43.21	↑	↓(44.43)	45.46	46.30	↑	↑(45.62)
反復横跳び	51.93	55.59	↑	↓(56.19)	46.60	48.89	↑	↓(48.94)
持久走	391.72	387.56	↑	↑(397.89)	288.51	295.67		↓(284.83)
20mシャトルラン	86.24	91.94	↑	↑(91.87)	58.80	62.59	↑	↓(62.66)
50m走	8.03	7.89	↑	↓(7.78)	8.83	8.62	↑	↑(8.64)
立ち幅跳び	194.69	195.98	↑	↓(198.06)	168.28	169.64	↑	↓(173.11)

ボール投げ	20.59	22.66	↑	↓(22.73)	12.85	14.07	↑	↓(14.17)
-------	-------	-------	---	----------	-------	-------	---	----------

H28 年度体力合計点		生駒市	奈良県	全国
小学 5 年生	男子	53.55	53.57	53.92
	女子	54.34	55.00	55.54
中学 2 年生	男子	45.14	43.11	42.13
	女子	52.54	49.51	49.56

(体力合計点とは種目別得点表に基づき、各種目の得点を合計したもの)

## (2)子どもたちの体力を高める取組～体力向上推進プラン

体育・保健体育の学習指導要領の目標には、「運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする」ことが示されており、児童生徒に運動の特性や魅力に応じて、様々な運動の楽しさを感じさせる体育・保健体育の授業が目指されている。児童生徒の体力向上を推進するためには、運動の楽しさや喜びを実感できるような学校の取組の中で、児童生徒が日常的に運動に触れる機会を多くもち、日々の生活の中で体づくりが進む中で、運動やスポーツへの意識を高めていくことが重要である。

本年度も各小中学校の体力向上推進プランを生駒市ホームページに掲載した。各学校で、「運動の楽しさや喜びを味わえる」ための授業や行事の改善を図ることがより一層望まれる。また、教員自身が体力づくりをすすめ、運動指導をより円滑に行うための研修にも各校積極的に参加している。

### <体力向上のために本年度特に力を入れて取り組んだ内容>

		取組内容	回数・日数・対象・人数
小 学 校	生駒	体ほぐし運動や、体幹を鍛える運動、外遊び	全学年対象 通年
	生駒南	陸上運動、体づくり運動、柔軟性と走力向上	全学年対象 通年
	生駒北	外遊びの奨励（なかよし遊び・うきうきタイム）	月2回
	生駒台	握力強化、健康体操で柔軟性向上	全学年対象 通年
	生駒東	朝の会での体幹ストレッチ、運動タイムを年間5回	全学年対象 通年
	真弓	「縦割り外遊び」「外遊びみんなでチャレンジ」	年6回
	俵口	「縦割り外遊び」、長縄大会、休み時間の外遊び	全学年対象 通年
	鹿ノ台	外遊びの奨励 「駆け足・縄跳び月間」	全学年対象 通年
	桜ヶ丘	縦割り外遊び ストレッチ運動	年間 25 回 体育の授業時
	あすか野	外遊びの奨励（ドッジボール、縄跳びタイム）	毎木曜日の昼休み 40 分間
	壺分	スポーツイベント	各学期 1 日×3 学期
	南第二	スポーツタイム 雲梯や登り棒の奨励	毎金曜昼休み 25 分間
中	生駒	補強運動、サーキットトレーニング 部活動の充実	通年 体育授業 部活動時
	生駒南	「奈良県一周縄跳びの旅」ストレッチの強化	通年 体育授業時

学 校	生駒北	ランニング、補強運動 部活動の充実	通年 体育授業時 部活動時
	緑ヶ丘	部活動の充実、サーキットトレーニング	通年 体育授業時 部活動時
	鹿ノ台	部活動の充実、体育館解放 補強運動 ストレッチ	部活動時 昼休み 授業時
	上	補強運動、部活動の充実	通年 体育授業時 部活動時
	光明	授業時に筋力トレーニング、ストレッチの導入	体育授業時
	大瀬	クロスカントリーコースの設定、体カづくりトレーニング	体育授業時

### (3) 防災教育の推進

近い将来、発生すると予想されている東南海、南海地震では、奈良県においても大規模な被害が想定されている。そのような中、学校における防災においては、「防災計画」として、児童生徒の安全確保を第一に考え、予想されるすべての事態に対して、適切な措置ができる体制を確立することが必要である。各学校においては、防災対策マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を行いながら、避難経路、保護者への引き渡し方法などの確認を行っている。

本年度は、「教職員として、災害時の対応及び防災コンテナの活用方法を学ぶ」をテーマに、市教委主催の教職員対象の夏期研修会を開催した。

今後も、「自助・共助・公助」の視点から、防災対応能力の基礎を培うことに努める必要がある。

### (4) 食育の推進

本市においては、市民一人ひとりが実際に食育に取り組み実践してもらえるよう、平成 25 年度から「第 2 期 生駒市食育推進計画」が策定されている。

本年度実施された、奈良県学力・学習状況調査結果によると、本市の小学校 4 年生、中学校 1 年生では、小中学生とも 90%が朝食を毎日食べて登校しており、基本的な生活習慣は身につけていることがうかがえる。しかし、小学校では「どちらかといえば、していない」「していない」と 2.4%の児童が、中学校では「どちらかといえば、していない」「していない」と 3.6%の生徒が朝食を毎日食べていないと答えており、引き続き各学校で児童生徒だけでなく、保護者に対する食育に関わる取組の啓発を進めていく。

各学校においては、学校給食などを通して、「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を身につける取組みが進められている。特に、小学校では、食事の準備を手伝う機会を通して、食への関心を高める工夫がなされている。本年度も市主催で、「小学生メニューコンテスト」が開催された。その他、郡山保健所との連携で「手洗い出前授業」の実施や、中学校では、食品会社による「食育教育出前授業」の実施があった。

また、食物アレルギーに関する教職員研修を実施し、未然防止や早期発見の手順についての共通理解を図った。アレルギーを持つ児童生徒については、保護者から「学校生活管理指導表」を提出願ひ、連携を密にした。

食への関心を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身につけさせる指導に努め、自ら生涯にわたっての心身の健康維持・増進に努める姿勢を育成する。

#### 4、「創意と活力に満ちた安全で信頼される園・学校づくり」について

学校評価を適切に実施し、成果と課題を踏まえた積極的な園・学校改善に努めることが生駒市学校教育の目標の中にあげられている。各学校が学校評価総括表を用い、重点課題には具体的な数値を入れた指標を示し、学校が継続的、組織的、計画的に評価を行い、次年度の課題を検討し、学校関係者に公表するものとした。

##### (1)学校評価を活用した園・学校改善

学校は、自校の教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準の向上を図ることが重要である。また、学校運営の質に対する保護者等の関心が高まる中で、学校が地域や保護者に対し適切に説明責任を果たすとともに、学校の教育活動への理解を図ることにより相互の連携協力の促進が図られることが期待される。「地域と共にある学校」が言われるようになって久しい中、学校関係者評価は学校の教育活動を広く周知し、地域と学校をつなぐツールともなり得るものであり、地域に開かれた学校運営を行うためには大切なものとする。

<各学校の学校評価について>

(小12校・中8校)

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	老小	二小	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	
<教育活動の取組調査から：H28/12/9 提出>																					
学校評価委員会を開催した。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
保護者を含んだ学校関係者評価委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
自己評価の公表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
学校関係者評価の公表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
<学校評価総括表から：H28/6/30 提出>																					
「昨年度に残された課題」が「本年度の課題」になっている学校。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	×	○	○	80%
達成度を検証しやすい数値指標を設定している学校	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	75%

学校関係者評価は全ての学校でホームページでの公開や学校便り等の配布により行いその結果も公表している。学校関係者評価を行うことにより、学校が進もうとしている方向を広く示し、学校に関係する方々が学校と一緒に子どもの子を考え、様々な意見を出し合うことでより地域根差した学校になることを目指す。また、結果を公表することにより、さらに多くの方に学校や地域に関心を持ってもらえるようになることを期待する。

## (2) 地域と共にある学校、園づくり

### ○地域ぐるみとの連携

生駒市地域ぐるみの児童生徒健全育成事業推進協議会における、各中学校区の推進委員会で「地域でつながり合う子育て」を目標に、見守り活動、子育て講演会、クリーン活動、映画会、走ろう会等、児童生徒と保護者や地域の方々が協働できる様々な行事を企画し運営している。その結果、学校、園と地域の距離が近くなると共に信頼関係がより深まり、様々な意見を学校運営に反映できるようになっている。今後もあらゆる機会です学校、園・家庭・地域の連携を深め、学校、園の様子を広く伝えていく必要がある。

### ○学びのサポーターの活用

学びのサポーターは学校行事・各教科・情報教育・クラブや部活動・学力補充・適応指導教室等の指導補助や特別な支援を必要とする児童生徒の介助補助など、各学校の実情やニーズに応じた支援活動を行っている。教員だけでは目の届かないところへサポートで入ってもらうことで、児童生徒一人ひとりに決め細やかな指導が行える。サポーターは大学生で、児童生徒と年齢も近い為、親しみやすい存在となっている。

この制度は学校教育の充実を図るとともに、大学生のキャリア教育を支援するという側面も担っている。登録できる大学生は、教員を志望する市内在住の大学生及び市内に設置された大学の学生である。

#### <小学校での学びのサポーターの活用状況>

(平成28年11月末現在)

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小	合計
活用人数	3	3	2	1	4	2	2	1	2	2	1	6	29
活用時間	179	234	70	60	157	152	63	64	64	114	99	130	1386

#### <中学校での学びのサポーターの活用状況>

(平成28年11月末現在)

	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	適指	合計
活用人数	1	6	1	1	1	0	3	2	1	16
活用時間	55	157	13	160	57	0	9	115	16	582